

Türkiye 出張記

【移動】

成田空港から 13 時間のフライトでカタールのドーハ空港に到着し、飛行機の乗り継ぎ(トランジット)で 3 時間立ち寄った後、4 時間のフライトでトルコの首都アンカラ空港に降り立った。

1 月 29 日の東京の最高気温は 11℃で、コートを着て成田空港に移動した。搭乗する飛行機は成田空港出発の最終便 1 つ前 21 時 55 分、成田空港は歩く人の姿は少なかった。

トランジットで立ち寄ったカタールの到着は日の出前の 4 時 55 分の早朝だったが、ドーハ空港には大勢の人々がいて活気に満ちていた。最高気温 22℃だったので空港にいる人々は皆半袖姿の夏服だった。カタール空港ではターミナルから駐機場までバスで移動したが、夏日が暑く眩しかった。

1 月 30 日にアンカラ空港に到着した。最高気温が 3℃で、夏のカタールから冬の東京を通り越し、極寒のアンカラで季節が逆戻りした。

この寒いアンカラ空港には同僚が待っていてくれたが、一緒に車で迎えに来てくれる予定だった方の姿は無かった。当初の予定では車 2 台に日本人 3 人が分かれて乗車して空港から移動する予定だったが、1 台に 4 人が乗車して、さらに 3 人分のトランクケースを積んで移動することとなった。



【建物】

トルコに来てマンションが多い事に驚いた。アフガニスタンやシリアからの難民の受け入れのために住宅が不足しており、マンションの建設ラッシュとなっているようだ。デザインが素敵で、立派なタワーマンションが建っているのを見て、22 年前に旅行した時から経済発展していることを実感させられた。

しかしトルコは日本と同じ地震国で、2023 年 2 月 6 日にトルコ南東部で発生したマグニチュード 7.8 の地震とその余震により数十万の建物が損壊し、トルコ・シリア両国合わせて約 6 万人が犠牲となっている。損壊した建物は旧耐震基準で建てられた古い建物だけでなく、地震の 3 年前に建設された最新の耐震基準の建物も含まれているようなので、目の前に広がるマンション群が倒壊しないことを祈る。



【日本人】

トルコを歩いていて、イスタンブールに住んでいる同僚以外は日本人や韓国人、中国人にも会うことがなかった。しかしトルコの人々は私を見て「Japonya(日本)」と話しかける。人口や地理的關係から考えても日本人より中国人に会う確率が高いと思うのだが、トルコが親日国だからなのかもしれない。